

Economic Indicators

発表日:2019年9月18日(水)

貿易統計(2019年8月)

～輸出に下げ止まりの兆しがみられるも、楽観視はできない～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL:03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比								
18年	7月	▲2,274	▲646	3.9	14.6	0.9	▲4.8	1.1	3.3	4.1	5.6	9.7	2.5
	8月	▲4,481	▲1,998	6.5	15.4	1.0	3.2	4.7	0.3	4.6	8.5	1.3	3.4
	9月	1,241	▲2,273	▲1.4	7.1	▲5.0	▲3.1	▲5.0	▲4.7	▲2.7	▲7.8	▲8.2	▲1.8
	10月	▲4,563	▲2,722	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.6	12.4
	11月	▲7,391	▲4,247	0.1	12.5	▲1.9	1.8	6.2	▲4.5	4.2	▲2.7	9.2	3.4
	12月	▲557	▲1,999	▲3.9	1.9	▲5.8	3.9	5.7	▲10.4	▲2.2	11.5	▲4.0	▲2.4
19年	1月	▲14,177	▲2,624	▲8.4	▲0.8	▲9.1	10.2	▲1.5	▲14.3	0.5	11.4	▲3.6	3.7
	2月	3,316	▲283	▲1.2	▲6.5	▲0.7	4.1	4.6	▲1.2	▲6.5	5.7	▲1.2	▲10.8
	3月	5,227	▲1,910	▲2.4	1.2	▲5.7	0.3	4.7	▲8.0	0.4	▲3.1	▲10.7	5.5
	4月	535	▲1,078	▲2.4	6.5	▲4.3	5.1	▲2.9	▲3.4	4.1	1.4	5.6	3.4
	5月	▲9,702	▲6,008	▲7.8	▲1.4	▲9.0	▲1.0	▲8.0	▲11.7	▲1.2	5.5	10.8	▲2.9
	6月	5,875	▲204	▲6.6	▲5.2	▲5.6	2.9	▲4.5	▲5.3	▲3.2	2.8	▲6.9	▲3.8
	7月	▲2,507	▲1,040	▲1.5	▲1.2	1.7	10.1	4.6	▲4.6	6.7	9.5	1.4	8.4
	8月	▲1,363	▲1,308	▲8.2	▲12.0	▲6.0	▲3.5	▲2.3	▲8.9	▲6.2	▲3.4	▲5.0	▲4.1

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は赤字幅を拡大

8月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲1,363億円の赤字(コンセンサス:▲3,463億円、レンジ:▲6,510～▲2,042億円)とコンセンサスを上回る結果となった。

輸出金額については、前年比▲8.2%(コンセンサス:▲10.1%、レンジ:▲12.7%～▲5.8%)となった。これまで比較的堅調に推移してきた米国向けの輸出数量の減少(7月:前年比+10.1%→8月:同▲3.5%)が、輸出金額の減少に繋がった。輸入金額についても同▲12.0%と減少(コンセンサス:▲11.0%、レンジ:▲13.5%～▲5.4%)した。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲2.8%、輸入金額が同▲2.3%となり、貿易収支は▲1,308億円と前月から赤字幅を拡大した。

○輸出に下げ止まりの兆しがみられるものの、海外経済は依然として弱く楽観視はできない

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲1.1%(7月:同+1.3%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)と前月からマイナスに転じたものの、7-8月は4-6月比で+2.7%の増加に転じるなど、下げ止まりの兆しがみえている。品目別にみても、電気機器などで持ち直しの動きが伺える。

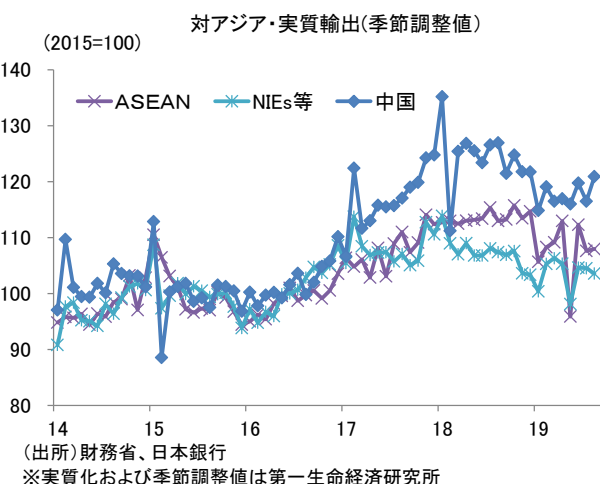
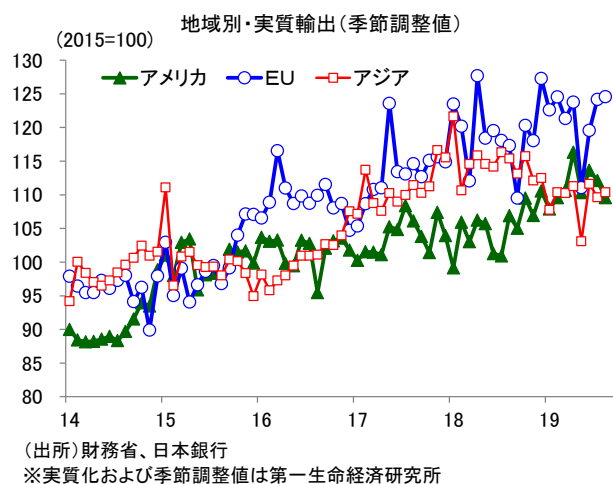
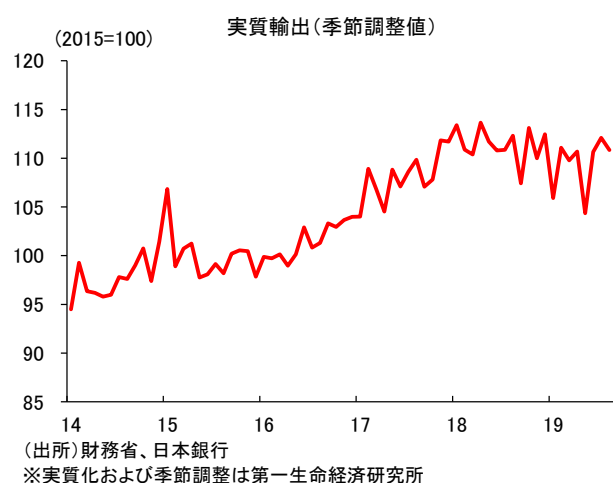
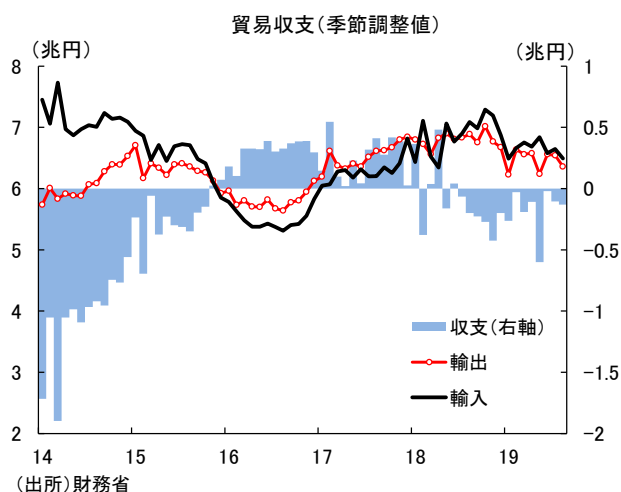
ただし、先行きについては楽観視できない。海外経済をみると、米国経済は、雇用情勢の改善基調を背景に、個人消費がこの先も底堅さを維持することが見込まれるものの、世界景気の鈍化や為替のドル高方向への推移が下押し圧力となり、徐々に減速していく可能性が高いとみている。欧州経済については、製造業の業況判断が冷え込んでいることに加え、雇用所得環境の改善ペースも鈍り始めて

いることから、弱い動きが続くことが見込まれる。中国経済については、世界景気の鈍化が外需を通じて景気の重しになることが想定されることから、今後も鈍い動きが続くだろう。総じて、世界経済は減速傾向での推移が見込まれ、輸出は横ばいからやや下落程度の弱い動きとなる可能性が高いとみている。

米中貿易摩擦については、米国が中国製品への関税引き上げの一部延期や暫定合意の可能性に言及、中国側も大豆や豚肉などの米国産農産物の輸入再開を検討するなど、19日に行われる貿易協議再開の前に、両国とも歩み寄りの姿勢をみせている。ただし、米中間での貿易協議は硬化と軟化を繰り返しており、これらの歩み寄りをもって楽観することはできず、今後も米中貿易摩擦はリスク要因として残る可能性が高いだろう。

○中国向けの輸出は増加に転じるも、下げ止まりとは判断し難い

実質輸出を国別に見ると、米国向けが前月比▲2.3%と減少した。米国向けでは、電気機器（同▲5.2%）や金属・同製品（同▲4.2%）、輸送用機器（同▲2.1%）などが主な減少項目となっている。世界経済の減速により輸出が弱い動きを続ける中、比較的堅調に推移してきた米国向け輸出であったが、その動きが弱まっている。下落トレンドに転じたとまでは言えないものの、今後の動きを注視する必要があるだろう。一方で、中国向けについては一般機械（同+5.3%）や電気機器（同+4.7%）を主因として、中国向けの実質輸出は同+3.8%と増加した。もっとも、中国の生産や輸出は依然として弱含む状況が続いており、今月の結果をもって下げ止まりと判断することは時期尚早だろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。